

2年ぶりの成人式開催 — 感染対策を講じて 盛大に —



実行委員による地域学習
(リニア工事現場・妙琴公園周辺)

成人式実行委員を 終えて

実行委員長 三石 隆世

初めは実行委員長をやりたいとは思っていませんでしたが、実行委員会を何回か行っていくうちに自分からこの成人式実行委員の代表をやりたい

と思うようになっていきました。

去年のこともあり、当日までこのコロナ禍の中で本当に成人式を行えるのだろうか、行ってもいいのだろうか、毎日不安で仕方がありませんでした。

当日は地域の皆様や、

関係者の皆様のご協力もあり成人式を行えることができました。

成人式を終えてあまり実感はないのですが、社会人の仲間入りしたことを自覚し、責任のある行動をして、この先長い人生を歩んでいきたいと思っています。

えんはくばい

昭和30年代前半、下山1班は、下山東部と言われていました。

その頃は、まだ家用車は普及していなくて、人々の移動手段は電車とバスだけ、飯田線下山村駅には駅員さんが3人いて大勢の乗客で賑わっていました。また、下山村駅始発のバスも走っていました。

駅のそばには天竜社という大きな製糸工場があり、大勢の女工さんが働いていて、工場のまわりには社宅が建ち並んでいました。下山は田園風景の中にポツンと農家が点在していて、鼎駅近くまで見通せました。

昭和36年6月いわゆる三六災害があり、全国から大勢の労働者が集まり、復旧作業が伊那谷各地で始まりました。その労働者達が仕事終わりに集まったのが、安いホルモン・ジンギスの焼肉屋でした。ものすごい人が店からあふれかえりました。これが今「焼肉のまち飯田」と呼ばれる原点だと思います。

三六災害復旧とオリンピックがかさなって、伊那谷は大きな経済発展を遂げられました。

(下山 塩沢善郎)

分館が小PTAと共催
 コロナ禍で工夫して
 伝統行事を行いました。

各地区の どんど焼き 点描

みんなで作るおんべ

上茶屋PTA支部長

倉田幸智子

上茶屋地区では例年、高学年男子がお父さんたちと竹取りに行き、他の児童や女子が傘飾りを作りおんべの準備をしています。傘は折り紙や花飾りを使いとても華やかにしています。

お正月の終わりには全児童で地区内の松集めをし、みんなで協力しておんべが出来上がります。

上茶屋地区は児童数

コロナ終息を願

一色 林 亜紀子

1月9日(日)にどんど焼きを行いました。

年々一色区内では宅地化が進み、開催場所の確保が難しくなってきましたが、周囲の安全に配慮し、規模を縮小することで行うことができました。昨年続きコロナ禍での開催でしたので、マスク着用、飲食自粛等の制限はありましたが、なかなか人に会えない中、地

が少ないため、各行事には全児童及び保護者の参加が必要なのですが、多くの方々に協力いただき、地域の方のお支えもありおんべができることを感謝しております。



域の方々が火を囲み、顔を合わせられたことは貴重な時間になったと思います。

燃え上がる火に込めた「コロナ終息」の願いが届きますように。



ミニどんど焼き

西鼎PTA支部長

林 篤史

西鼎支部では、松川の拡幅により公民館前の河川敷が狭くなったことから、昨年度より竹で組まない松飾りのみのミニどんど焼きを行っています。今年度は1月9日に小学生とPTA保護者で区内の松飾りを集める予定でしたが、新型コロナウイルスの警戒レベルが高まったことから、PTA保護者のみで松飾りを集めました。ど



んど焼きへの小学生の参加も任意とさせていたいただきました。区の役員の皆様とPTA保護者が代表して、コロナ終息の願いを込めて無病息災をお祈りしました。

炎立ち登る

中平 加藤善子

コロナ感染者が拡大する中、感染対策をしっかりとしながら、1月8日松川河川敷に用意する。翌朝6時に点火。炎はたちまち空に向かい立ち登る。寒い朝には、どんど焼きの火は身体を芯から暖めてくれる。こんなところから「どんど焼きの火にあたりと一年間病気をしなくて過ごせる」と言われているのだろうか。



最後に、皆それぞれに工夫した餅焼きの網で焼いた餅を家に持って帰る。

ずんずんずん隊
 に参加して

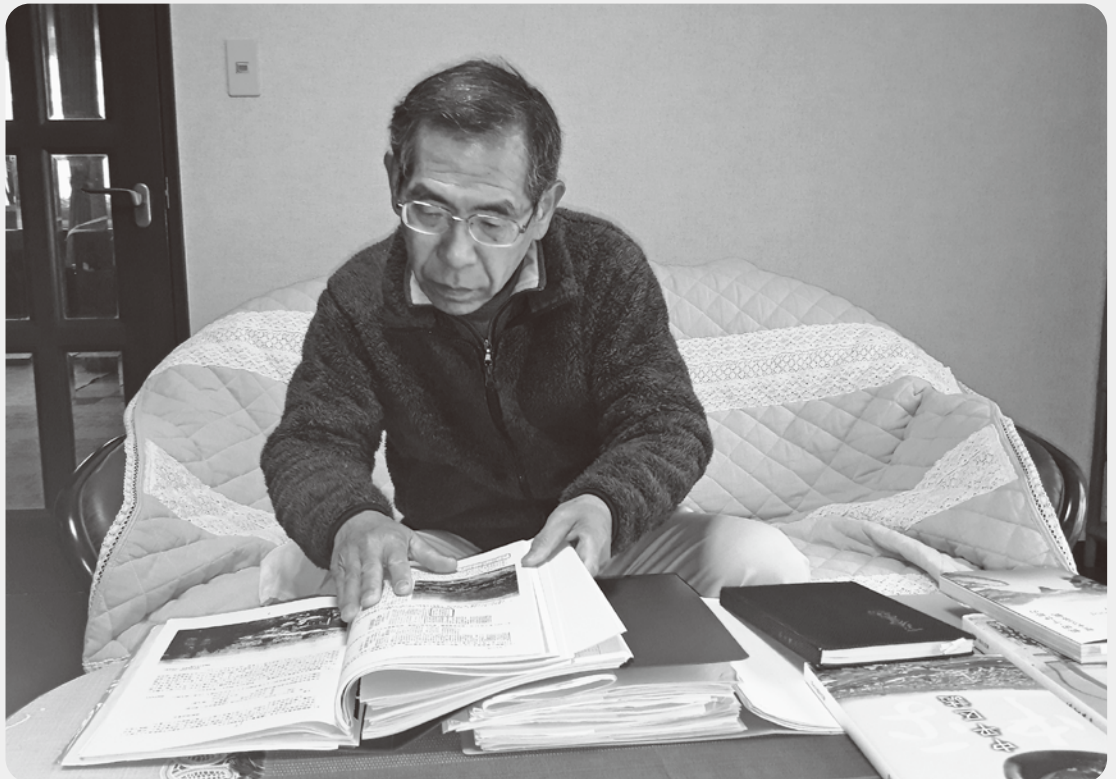
下伊那農業高等学校食品化学科
 3年 眞野陽夏

地域の子どもたちと一緒に大豆の栽培から加工までを行えて、とてもいい経験ができました。改めて地域の方々との関わりや繋がりは大切だと実感しました。学校で大豆の勉強をしている子が、「初めて本物の大豆に触れて栽培から加工までを行うことができ楽しかった」と、大豆に興味を持ってくれたことがとても嬉しかったです。また、「家庭で体験できないことをずんずんずん隊で体験でき、とてもよかったです」と保護者の方からも感想を頂けて、皆で協力してきた甲斐があったと感じました。



かなえ歴史探訪

福澤功次さん(78歳) 下茶屋



仕事で10年ほど県内数カ所回って県に戻り、地区のことに関わり始めて地元のことをよく知りたくなりました。かつて私の家は戦前に焼酎や蒟蒻をつくっていて、戦後は野球用のバットを製造していました。また、子どもの頃の下茶屋には色々店や職人が仕事をしていましたが、県などこの地域にはどんな歴史があったのだろうかと思い、2006年4月に「県歴史を学ぶ会」に入会しました。

今まで何気なく見てきた石造物やお寺・神社などの歴史。また明治以降、農業や商工業の変遷を見ると時代の変化の中で県の人々がどう関わってきたか知ることができました。それは県の歴史

に関心ある方々が、調べ研究し、まとめた結果を学んだからです。県では10地区中7地区で「区史」ができているのも他に無い特徴です。

現在でも研究者による「歴史の再発見」があり、興味を持ちます。しかし同時に「今、歴史を私たちがつくっている」とする視点から、地域のことなどに関してその時の状況を含めて記録していくことが大事であると思います。



(文 福澤功次、取材 平沢忠広)

かなえびと

No.46

がんばっている漢字

上茶屋 倉田 暖あつと 音おとくん(5年生)



ぼくは、漢字の練習をがんばっています。

なぜがんばっているのか、その理由は漢検に合格するためです。漢検をやり始めたのは3年生のときです。8級に合格できたのがうれしくてそれ

編集後記

公民館報かなえ418号をお読みいただきありがとうございます。皆さまのご協力のもと無事に発行することができました。

今号は、各地区のどんと焼きを特集しました。新型コロナウイルスの影響により、例年通りの行事ができない中ではありますが、どんと焼きは小学校PTAと各地区と相談され、感染対策をとりながら行われました。それぞれの特徴

121名が出席 20歳の門出を祝う

県地区の令和3年度成人式が1月9日に県公民館で行われました。対象者は175名で、出席者は121名でした。感染対策を徹底し、祝賀会の代わりとして、飲食を伴わない交流会を実行委員が企画し、恩師の方も交え久々の再会を楽しみました。



謙虚な姿勢で

実行委員 今村美月

幼い頃、「大きくなったら、人のためになる仕事をしたい」と思っていました。今までの人生、紆余曲折しながらも夢に向かって20年間成長してきました。その夢が叶い、来年度からは児童養護施設の職員として社会人になります。初めは不安な事もたくさんあるかと思いますが、今まで学んできた事、経験してきた事を大切に周りの仲間と連携しつつ、日々努力を忘れずに過ごしたいと思います。



今年、成人を迎え大人の仲間入りをしましたが、まだ学生だからなのか、実感があまりわかないのが正直なところです。ですが、一人前の社会人であることを自覚し、謙虚な姿勢で一生懸命頑張っていきたいです。

両親に恩返しを

実行委員 岡澤朋哉

今年で社会人3年目です。懂れていた職種です。ので、めげずに頑張っていきます。

私は今年で剣道13年目になります。不器用なもので決して強くて実績十



分な人ではありません。それでも続けている訳は、ただただ剣道が好きで、そして剣道ができる環境があるからです。高校卒業後、指導者としても地元クラブに携わっています。子どもたちに剣道の指導をしながら、剣士としても指導者としても成長していきたいです。

両親に日頃感謝の思いを伝えられず、20歳になってもわがままに暮らしています。地元にいるので一緒に暮らしているのでも少しづつ恩返しをしていき、そばにいて喜ばれるような存在でありたいと思っています。

